

漢越語の使用率—日本語の漢語率との比較—

田中 裕也

(言語文化学部 ベトナム語専攻)

キーワード：ベトナム語, 漢越語, 漢語率

0. はじめに

富田 (1988) によれば、ベトナム語¹の語彙は大きく分けて固有語、漢語起源語、そして西欧起源語に分けられるという。

小椋ほか (2008a 及び 2008b) によれば、日本語の語種は一般に和語、漢語²、外来語と混種語の4種類に分けられるという。本稿の目的は、ジャンル毎の漢越語の使用傾向を使用率を基に明らかにし、日本語における漢語の使用傾向と比較することである。筆者は小磯ほか (2009) において指摘された日本語におけるジャンル毎の漢語率の傾向とベトナム語の漢越語の使用率の傾向の間になんらかの類似点があるのではないかと考える。

本稿では調査として文章ジャンルごとの漢越語の使用率を比較し、その傾向を明らかにする。本文中のグロス、文字飾り及び日本語訳は特に断りのない限り筆者による。

1. 先行研究

小磯ほか (2009) ではコーパスに基づく多様なジャンルの文体比較を通して日本語における漢語の使用率の傾向を明らかにしている。

漢越語の使用率とその傾向については村上・今井 (2010) が言及しているのみで、漢越語の使用率をジャンル毎に調査した研究は管見の限り見当たらない。ベトナム語における漢字の影響については、富田 (1988) を紹介する。

1.1. 小磯・小木曾・小椋・宮内 (2009)

小磯ほか (2009) は日本語コーパスを対象としてジャンル毎の品詞・語種の使用傾向を明らかにしている。以下にその研究内容と結果を引用及び要約する。尚、ここでは漢語についての記述を中心にあげる。

【調査方法】

新聞や書籍、web上の文章、話し言葉など、様々なジャンル、媒体におけるテキストの文体の差を、単語から得られる情報の比較を通して探る。

¹ ベトナム語は、オーストロアジア語族に属する言語で、形態論的には孤立語に属する。ベトナム語は少数民族の言語を除くと、大きく北部、中部、南部の3方言が話されている (富田 1988: 759 要約)。尚、「ヴェトナム語」という表記も存在するが、本稿では「ベトナム語」と表記する。

² 小椋ほか (2008) は近代以前に中国から入った語及び和製漢語を漢語として定義している。

分析データとして、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』以下（BCCWJ）と、『日本語話し言葉コーパス（以下 CSJ）』を用いた。BCCWJ から、(1) 行政白書、(2) 新聞、(3) 小説、(4) WEB データ（電子掲示板サイト「Yahoo!知恵袋」）、(5) 国会会議録を、CSJ から、(6) 学会講演、(7) 模擬講演(主に個人的内容に関する一般の人によるスピーチ)を選択した。（中略） 個々の品詞率、語種率は、サンプル毎の延べ語数に対する各品詞・語種の延べ語数の割合として求めた。

（小磯ほか 2009: 594）

以下では上記調査の結果とジャンル毎の漢語率についての記述を引用及び要約する。

【調査結果】

表 1: 日本語のジャンル毎の漢語率

ジャンル	白書	新聞	小説	WEB	国会	学会講演	模擬講演
漢語率	52%	42%	18%	23%	35%	38%	25%

（小磯ほか 2009: 595 を基に筆者作成）

表 1 の結果を踏まえ、各ジャンルの漢語率の傾向について、小磯ほか (2009) は、国会議事録や学会講演の漢語率は新聞や白書に近い値を示しており、複合名詞の多さによって漢語率が高くなっている事に加え、そうしたジャンルでは和語よりも漢語の方が用いられやすい傾向にあると述べている。

さらに、小磯ほか (2009) は漢語率の傾向について以下のように述べている。

この結果は、本研究のような短めの言語単位ではなく、長めの単位を用いた語種比率の調査結果とも整合的である。例えば、国語研究所 (1955) では日常談話よりもニュース解説やニュースの方が、樺島 (1963) では小説よりも新聞 (社会記事・新聞社説) の方が漢語率が高いとしている。この語種率の差の要因を一つに限定することはできないが、改まり度や専門性の程度の違いなどが関係しているものと考えられる。一方 WEB 掲示板については、和語率、漢語率、名詞率に関して、小説よりは白書や新聞、国会会議録や学会講演に近い値を示しており、質問という行為においてある程度改まった言葉遣いをする事や、回答・解説における専門性の高さなどが影響したものと考えられる。

（小磯ほか 2009: 595-596 ）

1.2. 村上・今井 (2010)

漢越語の使用率について村上・今井 (2010) は以下のように述べている。

ベトナム語では、日本と朝鮮半島と同様に漢字文化と接触したことによって、一般的に基礎語彙の上に、夥しい数の漢字起源の要素がかぶさっている。今でも、新聞の論説や硬い文章の表現では、漢字起源の言葉は、その語彙の 6 割に達すると言われている。

（村上・今井 2010: 17）

1.3. ベトナム語における中国語の浸透

富田 (1988) は、ベトナム語における中国語の浸透に関して以下のように述べている。

中国語は、やはりヴェトナム語の日常語彙の隅々にまで深く浸透し、日本語の言語状況と極めて類似しているのである。しかも、ヴェトナム語は中国語同様、単音節言語であるため、その浸透は日本語よりもはるかに自然で、その定着度も高い。

(富田 1988: 784)

2. 仮説

筆者は小磯ほか (2009) において指摘された日本語の漢語率のジャンル毎の傾向とベトナム語の漢越語の使用率傾向の間になんらかの類似点があるのではないかと考える。

3. 調査

本調査では、ジャンルの違いによる漢越語の使用割合を、新聞記事・学术论文・憲法条文・小説から手作業で調査し、漢越語の使用傾向を考察した。

本稿中の例文では、漢越語には対応する中国語を、純越語には対応する訳(筆者による)をひらがなで加えた。外来語にはカタカナで訳を加えた(一部英字のまま訳を加えている部分もある)。下線は熟語を表しており、2字で一つの意味を表していることを示す。調査で扱う漢越語の判定には原則として『越漢词典』を用いる。『越漢词典』についての説明を以下に要約する。

『越漢词典』は、何成・郑卧龙・朱福丹・王徳伦によって北京の商务印书馆から出版された辞典である。1960年に初版が出版された当時は中国国内唯一の越漢词典として使用されていた。その後1997年に第二版が出版された。本辞典は国家三部委(財政部・宣伝部・教育部の総称)が「簡体字についての共同通知」を發布する前に出版されたため、規範外の字が含まれている。本辞典は外来語や成句・複合語等を含め、およそ6万5千語を収録している。

(何成・郑卧龙・朱福丹・王徳伦 (1997) 要約)

『越漢词典』では、各見出し語に対して、漢越語である場合には対応する中国語が付されており、そうでない場合は見出し語のみ記載されている。以下は漢越語の表記例である。見出し語は筆者の判断で選択し、選択した見出し語に続く熟語が見出し語の下に記載されている。

<越漢词典の表記例>

Dụng (用) Dụng binh 用兵 Dụng cụ 用具

3.1. 新聞記事における漢越語の使用率

オンラインでベトナム語のニュース記事を配信している Vietnam+ の記事 40 本(2014.8.10 ~2014.8.26) において漢越語の使用率を調査した。

調査結果より、記事によって使用率の差はあるものの、漢越語の使用率の平均は 52%にとどまった。当調査での全体の平均値は村上・今井 (2010) が指摘した 60%の使用率には達しなかった。使用率は記事の内容によって異なった。

3.2. ベトナム社会主義共和国憲法 (2013 年憲法) における漢越語の使用率

ベトナム社会主義共和国憲法 (2013 年憲法) における漢越語の使用率を各条項の総語数が合わせて 300~500 語になるようまとめ、全体の使用率を計算した。

本調査の結果から法律文 (本調査では憲法) における漢越語の使用率は全体で 72%となり、新聞記事における漢越語使用率の全体よりも高くなった。この理由は二つあると筆者は考える。一つは、複合名詞を反復しているからである。憲法の条文では、一つの条文において事物を規定する際、同じ用語を条文中で反復することは避けられない。例えば、第 1~5 条ではベトナム社会主義共和国について定義しており、「ベトナム社会主義共和国」(主に漢越語から構成されている) という語が多用されている。

二つ目の理由として、文体がフォーマルで堅い語感を感じさせるものであることが挙げられる。つまり、憲法で使用される文体は法律文特有の文体であり、小磯他 (2009) が指摘した専門性の高いジャンルに含まれると考えられるため、日本語の漢語の使用傾向と同様に、専門性の高さから漢越語が多く使用される傾向がある。村上・今井 (2010) の指摘と筆者の調査からわかるように漢越語は新聞では一定の割合で使用されており、憲法の条文ではさらに高い割合で使用されている点から、少なくともフォーマルな文体に漢越語が多用される傾向にあることがわかる。

3.3. 学術論文における漢越語の使用率

ベトナム語の学術論文 5 本について漢越語の使用率を調査した。以下はその結果を表で表したものである。

表 2: 論文体における漢越語の使用率と全体の平均

論文 (総語数)	『文学』 (5534)	『社会』 (5652)	『経済』 (4651)	『歴史』 (5955)	『言語』 (5008)	平均
使用率	55%	69%	64%	54%	50%	58%

調査結果より、論文における漢越語使用率は新聞記事における使用率よりは全体的に高いと考えられる。また、研究分野による漢越語の使用率には偏りがあることから、分野により漢越語使用率は異なることが分かる。本調査では、経済・社会学分野の論文における漢越語使用率が特に高いことが分かった。一方で、言語学分野の論文は、調査した論文の中で最も漢越語の使用率は低くなった。

社会学論文においては *thể chế chính sách lao động* 「労働制度政策」や *toàn cầu hóa hội nhập kinh tế* 「グローバル化した経済」など漢越語でのみ成り立っている複合名詞も多くみられる。このように、新語や人文社会科学に関連する用語に漢越語が多く用いられている背景には、漢字が造語力をもっているためではないかと筆者は推測する。一方、言語学論文では、これが特に心理学、言語心理学に関連した内容であったため、純越語を多く用いた状態動詞や形容詞が目立った。また、本文中ある楽曲の歌詞を度々引用しているが、そうした歌詞には純越語が多かったため、全体として漢越語の使用率は低くなったようである。

3.4. 国会議事録における漢越語の使用率

ベトナム国会議事録における漢越語の使用率を調査した。内容の異なる議事録2本からそれぞれ総語数が約3000語になる部分を抜き出し、漢越語の使用率を算出した。以下はその結果である。

表3: 国会議事録における漢越語の使用率

議題	総語数	使用率
情報安全法	3114	66%
料金法	2872	62%
全体	5986	64%

調査対象は2本と少ないものの、どちらの議事録においても漢越語の使用率は6割を超えた。漢越語の使用率が比較的高くなった理由として、国会議事録が村上・今井 (2010) が言及した硬い文章に該当する事や法律を議題としているため使用語彙が全体的に人文社会学の語彙に偏っており、そうした語彙に漢越語が多かった事が挙げられる。人文社会学分野において漢越語の語彙が多い事を調査によって結論付けた研究は管見の限り見当たらない。しかし、これまでの調査の結果から人文社会学分野での漢越語の使用率は高い傾向にあり、本稿で対象とした国会議事録に関しても同じ傾向が表れていると考えられる。

3.5. 小説における漢越語の使用率

竹内・川口訳 (1982) 『ベトナム短編小説選』に収録されているベトナム語の短編小説四作を調査した。竹内・川口訳 (1982: i-iii) によると、四作品はいずれもベトナム近代文学を牽引した文学集団である「自力文団」に所属する作家によって執筆され、文体は、言文一致の口語文体に移行した時代のものである。以下は各作品の漢越語の使用率をまとめた表である。

表 4: 小説における漢越語の使用率

作品名	作者	年代	総語数	使用率
1. 『過ぎし歲月』	ニヤット・リン	1932年	3866	10%
2. 『霧の中の人影』		1933年	1804	17%
3. 『あなた、生きて』	カイ・フン	1932年	1687	14%
4. 『香江のほとり』		1933年	1996	22%
全体			9353	14%

全体として漢越語の使用率は10~20%程度に留まり、使用率の低さが目立った。小説という文体上、風景描写や口語が多く、そうした中に純越語が多用されていた事が理由としてあげられる。

3.6. 国際連合憲章における漢語率及び漢越語使用率の比較

本調査では、国際連合憲章の日本語及びベトナム語の対訳を用いてそれぞれ漢語率と漢越語の使用率を求める。国際連合憲章は、1945年に、連合国会議において調印され同年に発効された国際連合に関する規定である。全19章、111条からなり、国際機構としての国際連合の目的や権限等について規定されている（国際連合広報センターホームページより筆者要約）。尚、使用する条文は前文を除いて、第1章1条から第5章32条までとした。漢語の判定には『明鏡国語辞典 第二版』及び『新漢語林 第二版』を用い、漢越語の判定には、『越漢词典』（詳細に関しては第6項の5節以降を参照）を用いる。

本調査の結果、国際連合憲章第1~5章における日本語の漢語率は44%、ベトナム語の漢越語使用率は62%となった。数値の上では漢越語使用率が漢語率よりも20%以上高くなっているが、使用率に関して留意しておくべき点がある。それは、調査対象である第1章~5章における条文の総語数の差異であるが、日本語は5229語であったのに対して、ベトナム語は2782語であった。形態論的に日本語は膠着語、ベトナム語は孤立語であるため助詞や助動詞等の要素が多く使用される日本語の方が総語数が多くなったと考えられる。その結果、ベトナム語の漢越語使用率が上がる一因となった。

同じ意味の用語を表現する際に日本語では和語で表しているがベトナム語では漢越語で表している場合が一定の割合で存在し、漢越語使用率をあげる一因となっている。これは、富田(1988)の主張と整合的であり、本調査においても、日本語よりもベトナム語の方が中国語からの借用語を多く使用しており、その定着度の高さがうかがえる。

4. 調査のまとめと今後の課題

以下では1.1節で紹介した表1を再掲し、本調査で算出された各ジャンルの使用率の表と比較する。尚、表5にあげる各ジャンルごとの漢越語の使用率は各調査における対象全体の漢越語の使用率である。

表1 (再掲) : 日本語のジャンル毎の漢語率

ジャンル	白書	新聞	小説	WEB	国会議事	学会講演	模擬講演
漢語率	52%	42%	18%	23%	35%	38%	25%

表5: 調査の各ジャンルごとの漢越語の使用率 (全体)

ジャンル		新聞	小説	法律	国会議事	学术论文
漢越語率		52%	14%	72%	64%	58%

表5の通り、漢越語の使用率は小説よりも新聞の方が高くなっており、表1の小磯ほか(2009)の研究結果と同じ傾向がみられた。日本語とベトナム語の両言語共に小説というジャンルでは、それぞれ漢語率、漢越語使用率は低くなった。風景描写等において固有語を用いて表現する場合は他のジャンルよりも多く、会話文においても固有語の使用頻度が高い事が理由としてあげられる。新聞のジャンルでは、本稿で調査したベトナム語において、記事の内容の専門性が高いと漢越語の使用率も高い傾向にあることが分かった。

法律文を扱った新聞記事や5.2節のベトナム憲法において漢越語の使用率は著しく高かったが、これは法律文という文体上、内容を過不足なくできるだけ短い音節で表現される事が求められており、その際に単音節である漢越語の使用が好まれるためではないかと推測される。これは、富田(1988)で指摘されていたベトナム語における中国語からの借用語の定着度の高さとも関係しているものと思われる。

本稿の調査で扱ったベトナム語の学术论文においては、人文社会科学に関連した内容のものに関しては漢越語の使用率が比較的高くなった。そこで登場した新語には漢越語が比較的多く使用されていた。人文社会科学系の語彙や新たな概念等を表す新語について、富田(1988: 784)が、「中国語と同じ単音節言語であるベトナム語において中国語の語彙の借用の定着度が日本語よりも高いことが考えられる。」と述べているように、この分野における中国語からの借用語も非常に多い可能性が高い。

本稿では日本語の学术论文を対象に漢語率を求める調査をしていなかったため、今後は日本語の学术论文、特に、人文社会学に関する論文を調査し、日本語において人文社会学分野における中国語からの借用語がベトナム語の場合に比べてどの程度浸透しているかを明らかにする必要がある。今後は調査で扱う対象を小磯ほか(2009)で扱われた白書、WEB掲示板や模擬講演に相当するものに拡大し、日本語の漢語率とベトナム語の漢越語の使用率の傾向をより正確に比較したい。

【参考文献】

小椋秀樹・小磯花絵・富士池優美・宮内佐夜香・小西光・原裕(2008a)『『現代日本語書き言葉均衡コーパス』形態論情報規定集』国立国語研究所内部報告書./小椋秀樹・小木曾智信・原裕・小磯花絵・富士池優美(2008b)「形態素解析用辞書への語種情報の実装と政府刊行白書の語種比率の分析」『言語処理学会第

14 回年次大会発表論文集』935-938./樺島忠夫 (1963) 「漢語をめぐって」『計量国語学』27, 14-19./小磯花絵・小木曾智信・小椋秀樹・富士池優美・宮内佐夜香 (2008a) 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』にもとづくジャンル間の文体差に関わる要因の分析」『社会言語科学会第22回研究大会発表論集』192-195./小磯花絵・小木曾智信・小椋秀樹・宮内佐夜香 (2008b) 「短単位情報に基づくジャンル間の文体に関する分析」『特定領域研究「日本語コーパス」平成20年度全体会議予稿集特定領域研究』99-106./小磯花絵・小木曾智信・小椋秀樹・宮内佐夜香 (2009) 「コーパスに基づく多様なジャンルの文体比較—短単位情報に着目して—」『言語処理学会第15回年次大会発表論文集』594-597./国語研究所 (1955) 『談話語の実態』国立国語研究所報告8, 秀英出版./富田健次 (1988) 「ヴェトナム語」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典』第1巻 東京: 三省堂./三根谷徹 (1993) 『中古漢語と越南漢字音』東京: 及古書院./村上雄太郎・今井昭夫 (2010) 「現代ベトナム語における漢越語の研究 (2)日本語にもベトナム語にも使われる「漢語」のうち、意味・用法の違うもの」『東京外大 東南アジア学』15:19-32./【調査資料】<新聞記事> Vietnam+ <http://www.vietnamplus.vn>. (2016/1/23 最終閲覧日) /<憲法>Hiến pháp năm 2013 <http://vbqpp.l.moj.gov.vn/Pages/vbqpp.aspx?loaiivb=Hi%E1%BA%BFn%20ph%C3%A1p> (2016/1/23 最終閲覧日) /<国会議事録><http://quochoi.vn/hoatdongcuaquochoi/cackyhophquochoi/quochoikhoaXIII/kyhophthuchin/Pages/bien-ban-ghi-am.aspx> (2016/1/23 最終閲覧日) /<小説>竹内与之助・川口健一訳 (1982) 『ベトナム短編小説選』東京: 大学書林/<学術論文>Nguyễn Hữu Lễ.MỘT SỐ VẤN ĐỀ THỂ LOẠI CỦA DU KÍ.Nghiên cứu v ăn học./ số/8: 852-62./Trần Thị Thu Hương.Chính sách phát triển vùng:bắt cập và một số giải pháp.Nghiên cứu kinh tế ./số/ 433: 70-77./ Đỗ Phú Hải.CHÍNH SÁCH LAO ĐỘNG-VIỆC LÀM Ở VIỆT NAM:TH ỰC TRẠNG VÀ GIẢI PHÁP.Xã hội học /số/ 2: 29-37./ Nguyễn Thái Yên Hường.TẠO KHẢ NĂNG SU Y NGHĨ VÀ TIẾP CẬN CÓ TƯ DUY TRONG SỬ HỌC-MỘT SỐ KINH NGHIỆM GIẢNG DẠY LỊCH SỬ NGOẠI GIAO HOA KỲ TRÊN GIẢNG ĐƯỜNG ĐẠI HỌC MỸ.Nghiên cứu Lịch sử./ số /5: 64-73./ Nguyễn Thị Bích Hạnh.PHẠM TRỪ Ý THỨC VÀ VÔ THỨC TRONG CA TỬ TRỊNH CÔNG SƠN DƯỚI ÁNH SÁNG CỦA THUYẾT NGHIỆM THÂN.Ngôn ngữ./số/7: 38-47./<国際連合憲章>国際連合憲章広報センター <http://www.unic.or.jp/info/un/charter/> (2016/1/23 最終閲覧日) /【辞書】何成・郑卧龙・朱福丹・王德伦等编 (1997) 『越汉词典』北京: 商务印书馆/鎌田正・米山寅太郎著 (2011) 『新漢語林 第二版』東京: 大修館書店/北原保雄編 (2010) 『明鏡国語辞典 第二版』東京: 大修館書店